



新年のご挨拶

日本デジタル教科書学会

会長 片山 敏郎

会員の皆様、明けましておめでとうございます。本年も、どうぞ宜しくお願いいたします。

日本デジタル教科書学会は、2012年の5月に発足しました。学会設立の構想が出来たのは、2012年の2月です。それから間もなく、丸3年が経過します。この間に、日本のデジタル教科書端末の普及や研究を取り巻く様相は、大きく様変わりしました。

他の大きな工学系の学会や研究会でも、タブレット端末を用いた実践や研究が発表されるようになりました。様々な自治体で、タブレット端末が導入され、一人一台での実践も増えました。私立の中学校・高等学校では、学校ぐるみでの導入が広がり、タブレット端末を用いて授業をすることが学校の売りになっているところもいくつかあります。

一般の公立校では、まだまだ1台も導入されていない学校がほとんどであり、普及期にあるとは言えません。それでも、この2年間での急速な伸びを考えると、2020年までのこれからの5年で、その導入は加速度的に進んでいくと思われれます。

2014年11月20日に発表された、中央教育審議会への諮問では、アクティブラーニングとともに、ICTの活用という文言が述べられました。おそらく、資質・能力の育成を柱とする次期学習指導要領の下では、タブレット端末を中心としたICTの活用が一層進み、それとともに、情報モラルを含めた「情報リテラシー」の育成がクローズアップされてくるものと思われれます。

教育におけるICTの活用は進みこそすれ、全く使用をしないという選択肢は現実的ではないと思います。大切なことは、活用の量ではなく、質であります。すなわち、どれだけ有効に活用できるかです。そういう視点で見ると、果たして有効な活用に関する研究はここ3年でどれほど進んだのでしょうか。確かに実践事例は、かなりの数がでてきました。しかし、それは本当に、学力や能力育成と結びついたものとなっているのでしょうか。また、ICTを活用する際の学習環境デザインや支援員を含む教育全体のデザインの研究はどれほどなされているのでしょうか。どの子も使えるaccessibilityの観点ではどうでしょうか。モラル上の問題、健康上の問題に関する研究はどうでしょうか。どの観点からみても、まだまだ十分であるとは言えない状況ではないでしょうか。

本学会は、デジタル教科書・教材を専門に研究する唯一の学会として、これらの諸問題に、積極的に対処していきたいと考えています。2015年に私たちが為すべきことは、山積しているのです。

8月には、札幌で、4回目の全国大会が開催されます。第1回の東京、第2回の大阪、第3回新潟と、蓄積されてきた財産を生かし、さらに、日本の教育界に貢献できるよう、会員一丸となって努力していければと思います。

立場を超えて共に手を携え、よりよい教育の実現に向けて、頑張りましょう。

2015年1月1日

年次大会に向けて

日本デジタル教科書学会

大会実行委員長 山田 秀哉



会員の皆様、明けましておめでとうございます。

本年 8 月に、デジタル教科書の整備状況が 8.7%の北海道で本学会の年次大会を開催することは、大変意義のあることだと思っております。

北海道と言えば、全国学力・学習状況調査でもご存知の通り、全国との差が大きい土地です。また、教員の ICT 指導力もそれほど高いというわけではありません。さらに、ICT 環境整備も遅れていると言わざるを得ない状況です。

しかし、2006 年に発足した D-project 北海道（一般社団法人デジタル表現研究会）と 2013 年に発足した北海道メディア教育研究会が中心となって、ICT 利活用を含めた今後に求められる教育についての研究を進めています。また、道内各地の教育研究所や教育センターでも講座を開き、輪を広げてきました。これまでに行ったセミナーは 17 回、講座は 18 回。参加者は延べ 1000 名を超えています。北海道でも着実に、教育の情報化が広がりつつあります。こうした活動と本学会とをリンクさせることで、新たな渦が沸き起こるものと信じております。

さて、第 4 回目となる年次大会では、今後求められる人材、アクティブラーニングを含めた授業デザイン、学習環境デザインなどについて、皆様からご意見をいただきながら、今後の教育ビジョンについて共有していきたいと考えています。

夏の北海道は、たいへん快適です。会員の皆様はもちろん、職場の同僚や友人などにもお声をかけていただき、ぜひご参会くださいますようお願い致します。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

講演会「DAISY/EPUB で実現するアクセシブルなデジタル教科書」

2015 年最初の研究会がせまっております。

開催の趣旨

デジタル教科書が備えるべき必須条件の一つである、アクセシビリティ確保に関する内外の最新情報について講演していただき、参加者からの質疑応答や意見交換により今後のデジタル教科書の在り方について認識を深めることを目的とします。

今回は、電子書籍の国際規格である EPUB を策定している IDPF のメンバーでもある「DAISY コンソーシアム」の河村宏氏、DAISY/EPUB フォーマットのデジタル教科書・教材の自動製作システムを開発している「シナノケンシ」の西澤達夫氏、同フォーマットのデジタル教科書・教材のモバイル端末用再生アプリを開発している「サイバック」の工藤智行氏の 3 名にご登壇いただき、内外の関連する最新情報の提供をしていただく予定です。

その後、参加者の皆様からの質疑応答や意見交換を進める中で、今後のアクセシブルなデジタル教科書の在り方について認識を深めていきたいと考えております。

日時：2015 年 1 月 18 日（日）13 時～17 時

会場：JA 共済埼玉ビル第 12 会議室（埼玉県さいたま市大宮区土手町 1-2）

JR 大宮駅東口から徒歩約 13 分 東武野田線北大宮駅から徒歩約 5 分

地図：<http://www.ja-kyosai-saitamabuil.co.jp/access.html>

詳しいタイムテーブルや申込みなどにつきましては、以下のアドレスからご確認ください。多くの皆様のご参会をお待ち申し上げます。<http://kokucheese.com/event/index/236970/>